

最新の高速デジタル画像インターフェース規格CoaXPressに準拠した 「MatroxRadiant」の新シリーズをリリース

キヤノンMJ ITグループのキヤノンITソリューションズ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:浅田 和則、以下キヤノンITS)は、新しい産業用高速デジタル画像インターフェース規格CoaXPress(コアクスプレス)に準拠した画像入力ボード「MatroxRadiant(マトロックスラディエント)」の新シリーズの取り扱いを開始します。



MatroxRadiant

■ 「国際画像機器展2011」で国内初公開

キヤノンITS は、CoaXPressに準拠したMatroxRadiantの新シリーズを、12月7日からパシフィコ横浜で開催される「国際画像機器展2011」で国内初公開し、12月9日の同展示会のセミナーで詳しく紹介します。

<http://www.canon-its.co.jp/seminar/20111207im.html>

■ 産業用高速デジタルインターフェース規格「CoaXPress」

CoaXPressは、2011年3月に公式に国際標準規格となった産業用高速デジタル画像インターフェース規格です。これまで実現できなかった高速画像処理システムの構築が可能になり、技術革新や高速化が進む半導体・印刷分野などのニーズに対応します。CoaXPressに準拠した画像入力ボードが、MatroxRadiantの製品ラインアップに加わります。

キヤノンITSは、産業・医療・セキュリティ業界に向けた最先端の画像処理ソリューションを提供しています。キヤノンITSの画像ソリューションは、高精度・高速処理が必要とされる各種検査機器・医療機器・印刷機器などに採用され、お客さまの製品品質の向上やコスト削減に貢献しています。

キヤノンITSは、お客さまからのニーズに対応した幅広いソリューションを提供し、システム開発の品質向上・開発期間短縮・トータルコスト削減を支援します。

■ 販売価格

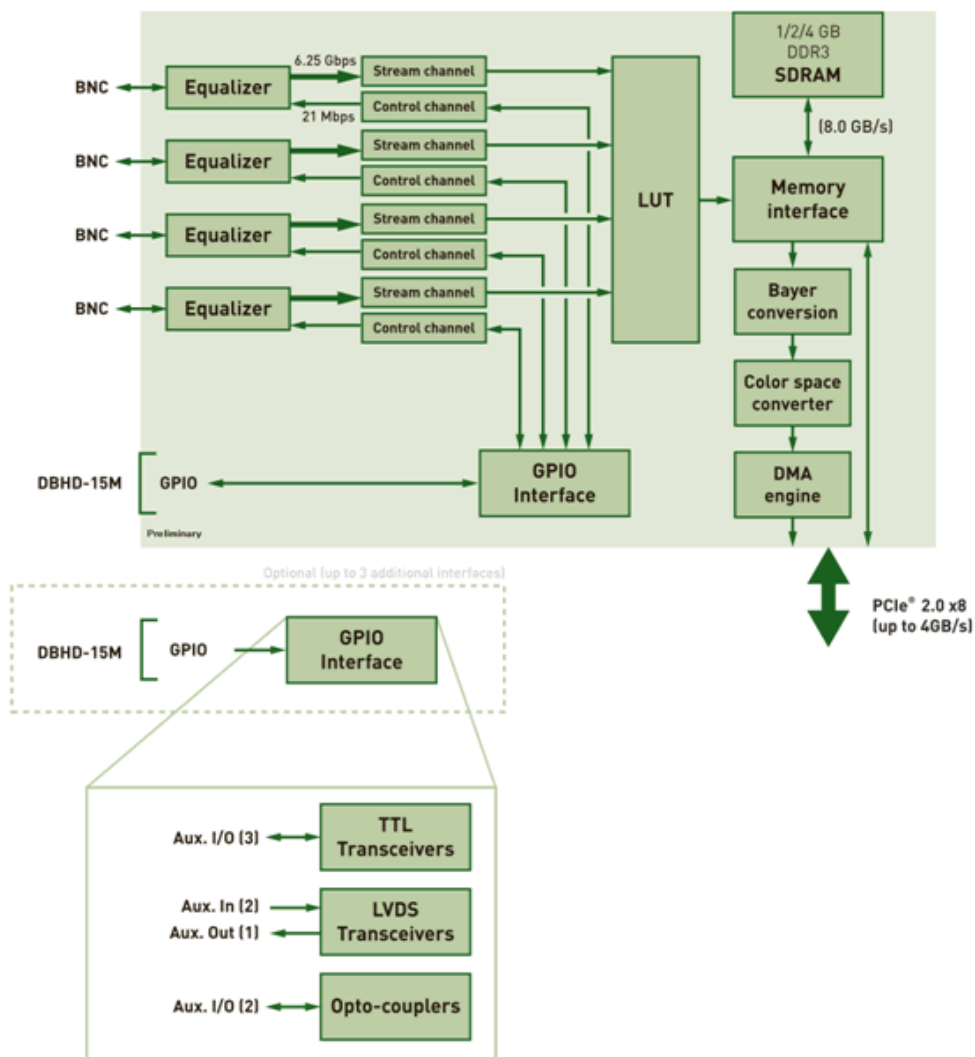
オープン価格

<CoaXPress対応MatroxRadiant の主な概要>

1. 特長

- ・ 同軸ケーブル1本で画像・制御信号の転送、電源の供給
- ・ エリアおよびラインスキャンカメラ対応
- ・ 入力1系統(最大6.25Gbps)、入力4系統(最大25Gbps)を使つての高速大容量画像転送が可能
- ・ 画像バッファとして、1GBのSDRAMを標準搭載
- ・ エンコーダ入力による制御が可能
- ・ オンボード処理によるベイヤー変換やLUT処理が可能

ブロック図



2. 仕様

| 項目 | 仕様 |
|--------------------|---|
| システムバス | PCI Express2.0 x8対応 |
| サイズ | ハーフサイズボード |
| メモリ | 標準で1GB SDRAMを搭載 |
| メモリアクセス | DMA転送 |
| 画像入力インターフェース | 入力系統: 独立4CXP Links、(4CXP同時取込可) |
| | データレート: CXP-6 Single 6.25Gbps、CXP-6 Quad 25Gbps |
| 外部入力 (CXPチャンネルあたり) | エンコーダ対応 |
| | 外部トリガー入力 |
| | 露光制御 |
| | TTL 入出力(3)、LVDS 入力(2) 出力(1)、絶縁 入力(2) |
| オンボード処理 | ベイヤー変換対応、LUT対応 |
| カメラ電源出力 | +24V (13W) per link |
| 画像処理ライブラリ | MatroxImagingLibrary 9.0対応 (別売り) |
| | MatroxIntellicam 9.0対応 |
| 対応OS | Windows XP/Windows 7/Linux、32Bit/64Bit対応 |

※Windows は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

※Matroxは、カナダMatrox社の登録商標です。

※Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

※仕様は、予告なく変更する場合があります。